

西之島の火山活動解説資料（平成 28 年 3 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

2013 年 11 月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていません。12 月以降は地表面温度の低下が確認されています。今期間に海上保安庁が実施した上空からの観測でも、観測中に噴火は認められませんでした。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで 2 年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒してください。

平成 28 年 2 月 17 日に火口周辺警報（入山危険）を切替え、警戒が必要な範囲を火口から概ね 1.5km の範囲としました²⁾。

○ 活動概況

<5 日の状況>（図 3～5）

5 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、観測中（11 時 55 分～13 時 00 分）噴火・噴煙は認められませんでした（図 3）。西之島の西岸を除く海岸線付近に幅約 50m～200m で西之島を取り巻くように褐色～青白色の変色水域が分布していました。また北西岸からは、北西沖へ幅約 1,000m、長さ約 1,000m で褐色の変色水域が分布していました。

熱計測の結果、前回（2 月 3 日）調査時と温度分布状況に顕著な変化はありませんでした（図 4）。

西之島の総面積は、2.64km²、新たな陸地の大きさは、東西約 1,940m、南北約 1,930m、面積 2.63km²で、前回（2 月 3 日）の調査時と比べてほぼ変化はありませんでした（図 5）。

<29 日の状況>（図 6）

29 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、観測中（13 時 12 分～13 時 17 分）噴火・噴煙は認められませんでした。西之島周辺に幅約 200m～1,500m の範囲に薄い褐色の変色水域が認められました（図 6）。第 7 火口の火口縁及び第 7 火口付近の溶岩流で若干温度が高い部分が認められましたが、顕著な高温域等の特異事象はありませんでした。

- 1) 噴石について、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流れてふる小さな噴石」のことです。
- 2) 平成 28 年 2 月 17 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報の切替にあわせて臨時の解説情報を発表しています。警戒範囲の詳細等は、臨時の解説情報をご覧ください。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 4 月分）は平成 28 年 5 月 12 日に発表する予定です。

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

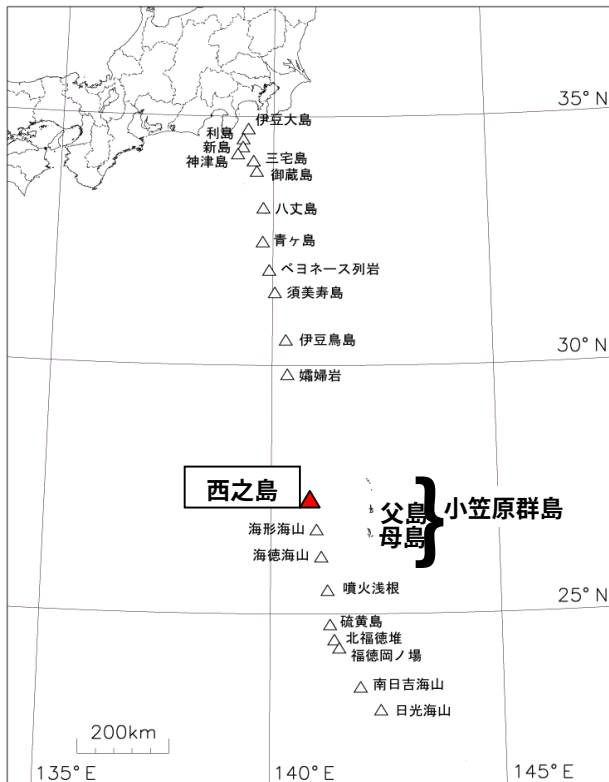


図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

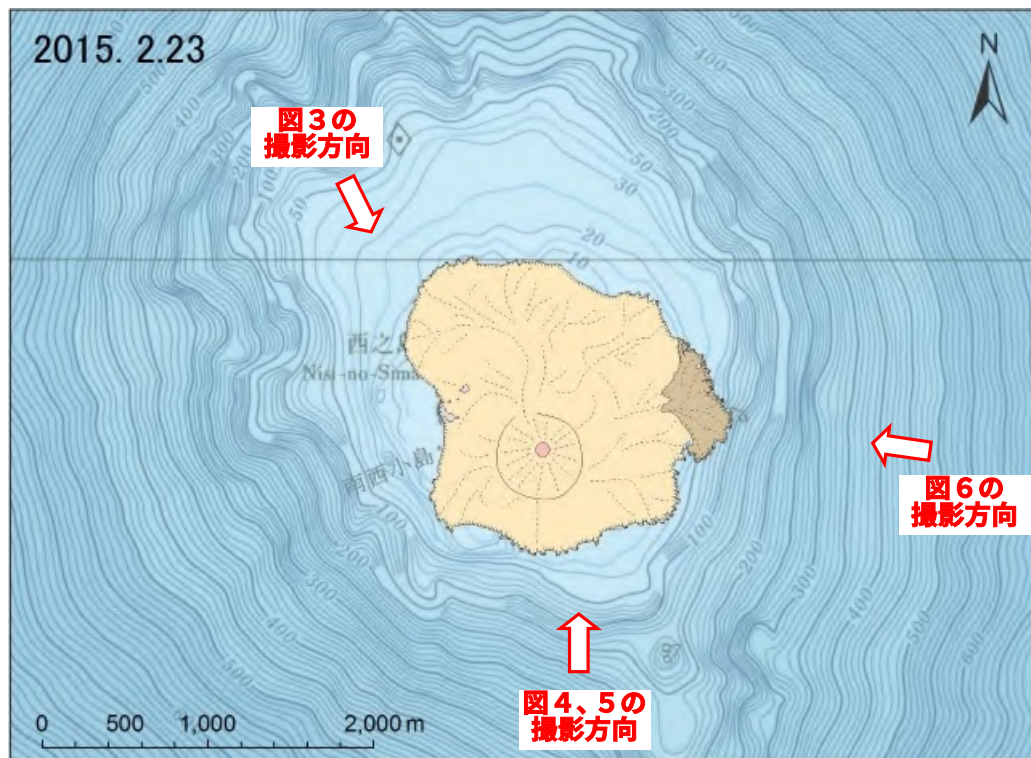


図2 西之島 撮影方向

西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。

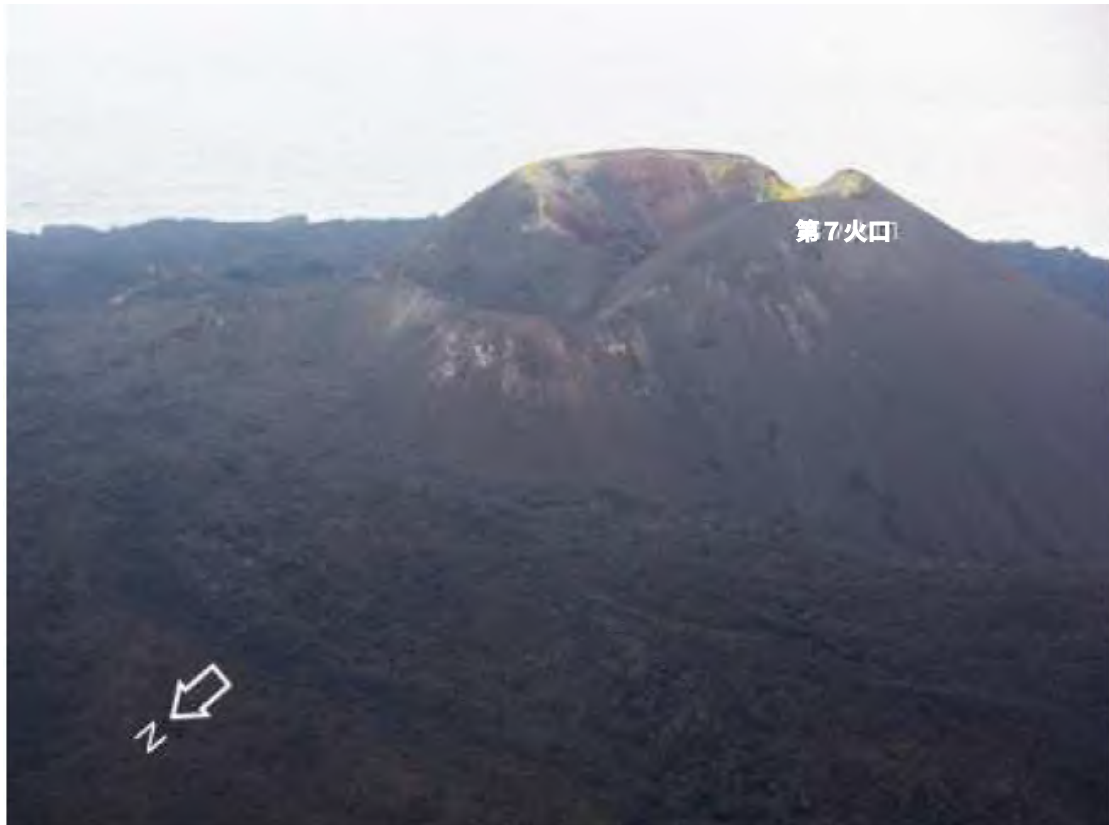


図3 西之島 第7火口の状況（3月5日 北西方向から撮影・海上保安庁提供）
・観測中噴火・噴煙は認められませんでした。

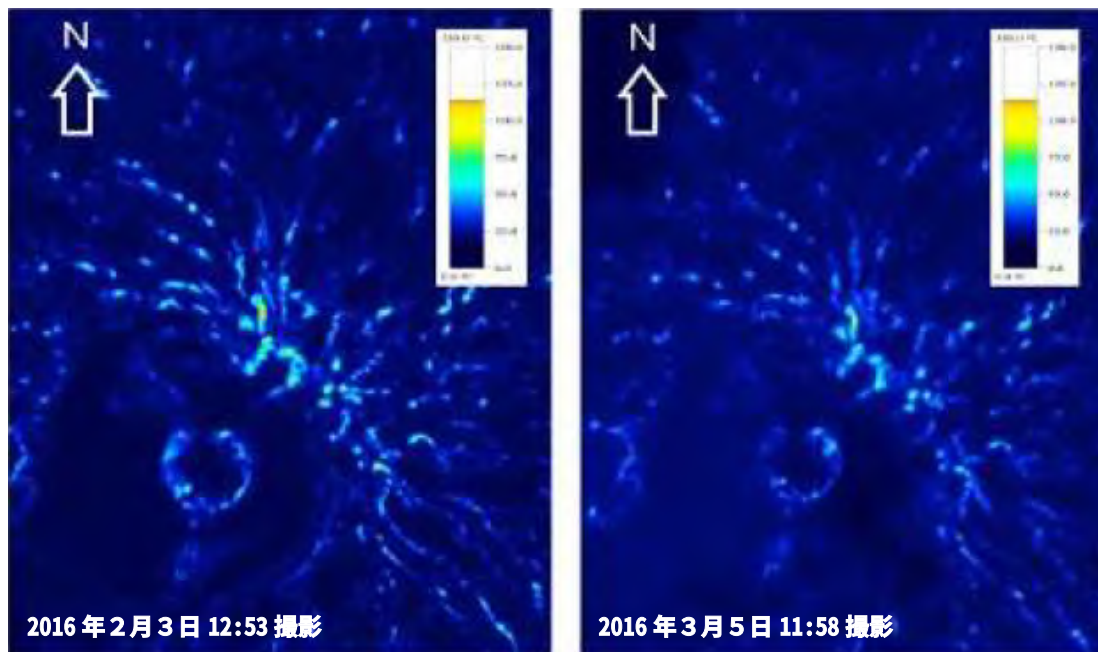


図4 西之島 熱の分布状況（3月5日 南方向から撮影・海上自衛隊提供）
・前回（2月3日）と比較して、地表面の熱の分布状況に顕著な変化はありませんでした。

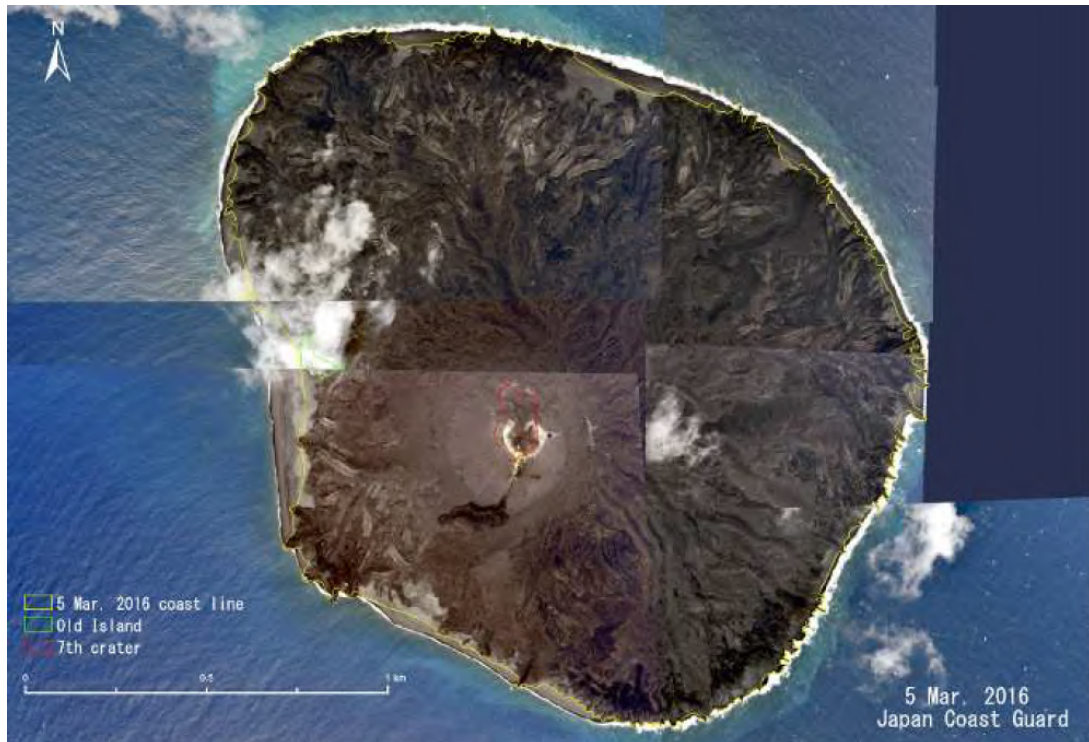


図5 西之島 空中写真による島の状況（3月5日 南方向から撮影・海上自衛隊提供）
・新たな陸地の大きさは前回（2月3日）と比較してほぼ変化はありませんでした。



図6 西之島 変色水域の状況（3月29日 東方向から撮影・海上自衛隊提供）
・西之島周辺に幅約 200m～1,500mの範囲に薄い褐色の変色水域が認められました。